



業務部速報

2026.02.09 No.36

発行: JR東労組東京地本 業務部



「上野統括センターにおける乗務ユニットの統合について」 提案を受ける(その③)

● 施策実施後の社員の働き方について

組 合	会 社
● 施策開始場面では田端の乗務員は予備組になるのか。	● 施策開始場面では予備組に入り、これまで通り波動列車などを担ってもらう。
● 互いの管理者が乗務点呼や異常時の操配ができる ように7月1日までに教育をするのか。 ● 田端駅の副長が田端乗務ユニットの当直業務も行っているがその点はどうか。	● 管理者の教育は7月1日までに行い、実施日に業務に支障がないようにしていく。互いの業務を知れるように見習いをしてもらうことも考えている。 ● 駅の副長が統合後も乗務ユニットで当直業務を行うのかについては今後検討していく。
● 乗務員訓練の建付けはどうするのか。	● 問題意識は一致している。今後検討していく。
● 乗務員の教育、管理者の教育、訓練など施策実施までにクリアしていくべき課題について様々聞かせていただいた。ほかに会社として課題と考えていることはあるか。	● 問題意識については一致している。そのほかには上野乗務ユニット側のレイアウトや物品整備などの環境の整備が必要だと考えている。
● 非常に大きな変化が伴う施策であり、必要な教育内容も膨大である。関係社員には丁寧な説明と教育の実施をしていただきたい。 準備や教育が不十分なまま施策を強行するようなスケジュールありきで施策を進めないでほしい。	● 主張は理解する。必要な周知や教育は行っていく。

3線区の運転、工臨の運転、駅業務、企画業務…これだけの業務を担ったとしても、新人事賃金制度において高い評価をすることを会社は保証しません。「社員を効率的に働かせる」だけの施策で、社員を備品のごとく扱う経営姿勢は強まる一方です。会社施策、多発する事故とそれに対する経営姿勢をみて、

職場や会社、自分の人生は、

本当にこのままでいいと思っていますか？

働く側から施策を創り出し、鉄道の安全と組合員・社員の「安全・健康・ゆとり」を守り抜くために、JR東労組に結集しよう！！